

富 山 県 武 道 館 整 備 基 本 計 画

令和2年4月

富 山 県

目次

第1 計画策定の背景	1
1 県営武道館の老朽化.....	1
2 県民スポーツの振興.....	1
3 北陸新幹線効果の持続・深化	1
第2 施設のコンセプト	2
1 武道競技の振興・競技力向上	2
2 スポーツ振興・健康増進	2
3 地域活性化・防災力向上	2
4 最新技術の活用.....	2
第3 施設の活用イメージ	3
1 武道競技の振興・競技力向上での活用イメージ.....	3
2 スポーツ振興、健康増進での活用イメージ.....	4
3 地域活性化での活用イメージ	5
4 地域の防災力向上での活用イメージ.....	6
第4 計画の概要	8
1 施設整備候補地.....	8
2 導入機能及び施設規模	23
第5 施設整備にあたり考慮すべき事項	28
第6 事業費と整備スケジュール	30
1 概算事業費.....	30
2 事業スケジュール（予定）	32

第1 計画策定の背景

1 県営武道館の老朽化

県営富山武道館と県営高岡武道館は、それぞれ昭和47年（1972年）、昭和51年（1976年）に整備された県営の武道館である。開設から40年以上経過し、老朽化が進んでおり、バリアフリーへの対応も十分ではない。試合場は公式面で2面から3面程度確保されているものの、県営富山武道館の観客席は少なく、県営高岡武道館には観客席がないことから、大会での利用が難しい状況である。日々の稽古だけでなく、審査会や講習会、県内大会で利用できる武道館の整備が求められている。

2 県民スポーツの振興

平成30年（2018年）に策定した富山県の総合計画である「元気とやま創造計画—とやま新時代へ 新たな挑戦—」では、活力とやま、未来とやま、安心とやまの3つの目指すべき将来像をとりまとめた。元気な富山県の実現にあたっては、県民一人ひとりが生涯にわたって健康でいきいきと輝き、学び、働き、暮らしていくことが重要であり、スポーツを通じた健康づくりは、健康増進、体力向上だけでなく健康寿命の延伸にも貢献する。

県民がスポーツに親しむ環境づくりを推進することにより、元気とやまを創造し、富山県の発展に寄与することが期待される。

3 北陸新幹線効果の持続・深化

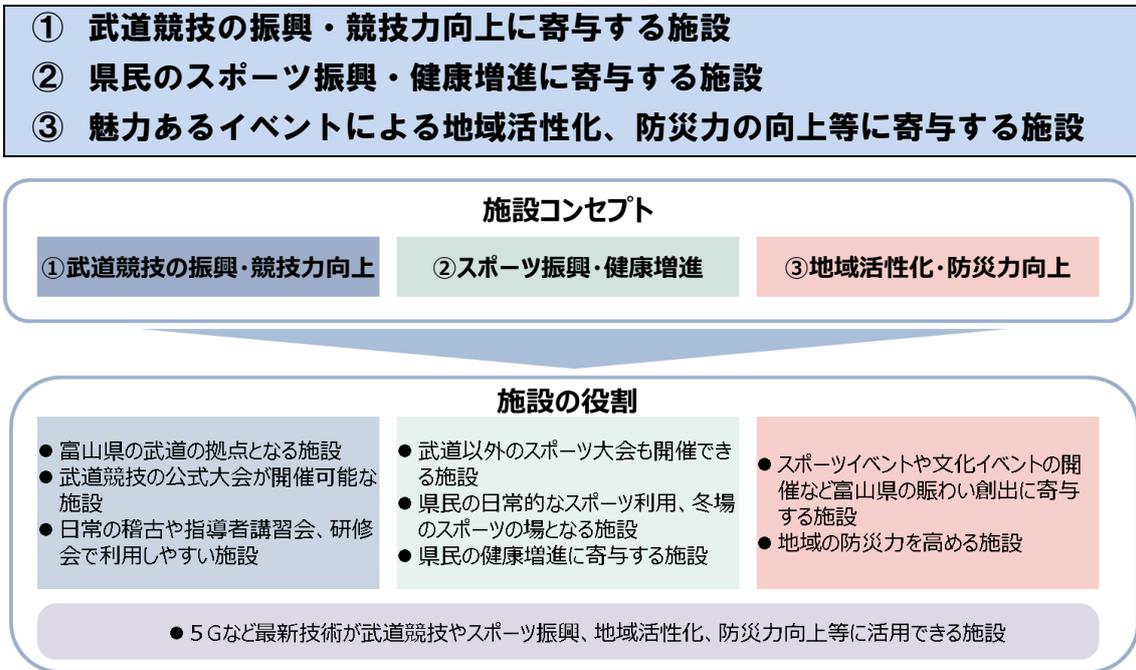
東京から大阪までの整備計画が定められている北陸新幹線は、平成9年（1997年）に高崎から長野まで、平成27年（2015年）に長野から金沢までが開業した。北陸新幹線の整備により、東京から富山までは最短2時間8分で結ばれ、交通利便性が飛躍的に向上し、乗車人員が開業前の3倍近くの高い水準が続くとともに、観光客の増加や企業立地の進展など様々な効果が現れている。

また、現在、金沢—敦賀間の125kmは令和4年度末（2022年度末）の完成を目指し整備中であるが、3年後の敦賀開業により富山—新大阪間は約50分短縮され、2時間30分で結ばれることになる。加えて5年後の令和7年（2025年）には大阪・関西万博の開催が予定されており、観光やビジネスでの交流増加も見込まれる。

さらに、新大阪まで開業すれば、富山—新大阪間は約100分短縮され、約1時間40分となる。こうしたことにより、今後、関西圏や中京圏との観光やビジネス面、さらには移住・定住の面でも大きく変化していくことが見込まれる。首都圏との効果を今後とも持続・深化させていくとともに、今後の北陸新幹線延伸を展望し、富山県の個性を活かした魅力的で賑わいのあるまちづくりを推進していく必要がある。

第2 施設のコンセプト

老朽化した県営富山武道館、県営高岡武道館がこれまで果たしてきた役割を踏まえたうえで、県民がスポーツに親しむ環境づくりの推進、富山県の魅力を高め、地域活性化や賑わい創出に寄与する拠点づくりの必要性を踏まえて、武道館機能を有する多目的施設のコンセプトを、以下のとおり設定した。



1 武道競技の振興・競技力向上

- 富山県の武道の拠点となる施設
- 武道競技の公式大会が開催可能な施設
- 日常の稽古や指導者講習会、研修会で利用しやすい施設

2 スポーツ振興・健康増進

- 武道競技で利用しない場合には、室内球技等のスポーツ大会も開催できる施設
- 県民の日常的なスポーツ利用、冬場のスポーツの場としても活用できる施設
- 県民の健康増進に寄与する施設

3 地域活性化・防災力向上

- スポーツイベントや文化イベントの開催など富山県の賑わい創出に寄与する施設
- 防災備蓄倉庫や避難所を備えるなど地域の防災力を高める施設

4 最新技術の活用

- 5GやICTなど最新技術が武道競技やスポーツ振興、地域活性化、防災力向上等に活用できる施設

第3 施設の活用イメージ

1 武道競技の振興・競技力向上での活用イメージ

- 富山県の武道の拠点となる施設
武道を県民に普及し、武道を通じて心技体を修練することにより青少年の健全な育成を図るため、富山県の武道振興の拠点となる施設とする。
- 武道競技の公式大会が開催可能な施設
柔道・剣道・なぎなた・空手など、各種の武道競技の公式大会を主道場（スポーツホール）や武道場において開催することにより、レベルの高い選手の技や姿勢を間近に観る機会が拡大し、武道競技の振興・競技力向上に寄与する施設とする。
- 日常の稽古や指導者講習会、研修会で利用しやすい施設
武道場を各種の武道競技の日常の稽古や指導者講習会・研修会の開催など武道を通じた交流の場として活用する。また、保護者を含め、広く県民に情報を発信することにより、県民が武道をより身近に感じることができる施設とする。



柔道大会



剣道大会



なぎなた講習会



空手講習会

出所：柔道大会：公益財団法人全日本柔道連盟 (<https://www.judo.or.jp/>)

剣道大会：全日本実業団剣道連盟・関東実業団剣道連盟 (<https://www.jp-kendo.jp/jp/index>)

なぎなた講習会：公益財団法人全日本なぎなた連盟 (<https://naginata.jp/>)

空手講習会：公益財団法人全日本空手道連盟 (<https://www.jkf.ne.jp/>)

2 スポーツ振興、健康増進での活用イメージ

- 室内球技等のスポーツ大会も開催できる施設
武道競技だけでなく県民の幅広いスポーツ志向に対応するため、主道場(スポーツホール)においてバスケットボールやバレーボールなど室内球技等のスポーツ大会を開催することで、県民だれもが気軽にスポーツに親しみ、楽しむことができるようにする。
- 県民の日常的なスポーツ利用、冬場のスポーツの場としても活用できる施設
武道競技だけでなく、県民の日常的なスポーツ利用、冬場のスポーツの場として、県民が様々なスポーツ活動に日常的に取り組める場とすることで、スポーツ振興を図る。
- 県民の健康増進に寄与する施設
ジョギングコースにおけるジョギングやウォーキング、また、武道場における畳敷きや板敷きの特性を活かしたヨガやストレッチ、エアロビクス、ダンスなど、幅広い年代の方が無理なく身体活動に取り組める機会を提供することで、県民の健康増進に寄与する。



バスケットボール



太極拳



バレーボール



ジョギング

出所：バスケットボール：富山県西部体育センター (<http://www.sportsnet.pref.toyama.jp/member/seibu/news/news20181111.html>)

太極拳：日本武術太極拳連盟 (<https://www.jwtf.or.jp/local/event201910-12>)

バレーボール：黒部市総合体育センター (<https://pregamestraining.tokyo2020.jp/jp/module/camp/facilities>)

ジョギング：鹿児島アリーナ (<https://kagoshima-arena.jp/facilities/runningcourse>)

3 地域活性化での活用イメージ

富山県出身のスポーツ選手による凱旋試合の開催、コンサート、スポーツショー等により魅力を創出する。全国組織の大会・研修・式典などの開催による集客交流機会を創出する。

その他文化イベントとして、ゲーム、マンガ、アニメなどのポップカルチャー関連のイベントやライブ、ファンイベントなどにより、新たな文化を創出する。



スポーツ興行



アスリートによるショー



プロジェクションマッピングを
取り入れたライブ



ダンスショー



音楽コンサート



全国組織の式典

出所：全国組織の式典：公益社団法人日本青年会議所中国地区岡山ブロック協議会 (<http://www.jaycee.or.jp/2017/chugoku/okayama/?p=825>)

4 地域の防災力向上での活用イメージ

地震などの災害時には、近隣住民や観光客等の避難所として主道場（スポーツホール）や武道場、観覧席などを活用する。

浸水被害等があっても、地上階より上の中層階（主道場（スポーツホール））や上層階（観覧席）部分を活用し、防災備蓄倉庫や、近隣住民や観光客等の避難所として活用できるなど地域の防災力を高める施設とする。

また、災害時だけでなく平常時においても、防災意識を高めるための研修や防災訓練の場所としても活用できる施設とする。



防災備蓄（段ボールベッド）



防災備蓄（段ボールベッド）



防災訓練（避難所設営）



防災訓練（避難所設営）



AED 研修



防災図上訓練

次頁に続く 

第4 計画の概要

1 施設整備候補地

(1) 施設整備候補地及びその選定基準に関する意見

第1回武道館機能を有する多目的施設整備基本計画検討委員会では、施設整備候補地及びその選定基準に関する意見交換を行った。

- 新たに整備する武道館機能を有する多目的施設は、まず武道館として必要な役割である武道競技公式大会開催基準を満たす施設とし、県内の武道競技の拠点となる施設であること。武道競技で利用しない場合には、室内球技等のスポーツ大会も開催できる施設であること。さらには、スポーツイベントや文化イベントの開催など富山県の賑わい創出に寄与する施設であること。
- これらの施設の性格から、立地場所については、県内各地からアクセスしやすい場所とする必要があり、幅広い県民が利用できるよう県内からの利便性が高いこと、生徒・学生が利用できるよう公共交通機関によるアクセスが容易であること、県外の方も利用しやすい交通利便性の高い立地、県内のスポーツ施設の地域バランスに配慮した立地であること。

これらの意見を踏まえ、候補地を評価するため、①利便性・アクセスなど施設利用が見込まれる立地、②施設整備に必要な用地の確保、③地域の活性化等の評価の3つの視点、10の評価項目からなる「候補地選定基準(案)」について了承された。

■施設整備候補地の選定基準に関する意見(第1回基本計画検討委員会)

- 多くの県民に利用されるような工夫が必要。また、新川地域の子どものことも考えると交通の利便性の高い富山市で整備を進めてほしい。
- 立地場所は、競技をする立場からは、交通の便の良いところが第一条件であり、大会を開催する際に、県内各地から集まりやすい富山市内がいい。
- 立地場所は、子ども達や生徒や学生、運転できない人も自分で行くことができる富山市が良い。県外からの来場者が宿泊施設を確保しやすい富山駅周辺や富山市内が望ましい。
- 立地場所は、県営スポーツ施設の地域東西バランスも加味して検討してほしい。
- 立地場所の選定については、富山駅から徒歩圏内または富山駅周辺がベストだと思うが、富山市内で適地がなければ、他の利便性の高い場所も検討してほしい。

(2) 施設整備候補地の選定基準

本施設の施設整備候補地については、武道競技の振興・競技力向上、スポーツ振興・健康増進、地域活性化といった本施設のコンセプトを踏まえ、以下に示す選定基準を設定した。

第2回基本計画検討委員会においてはこれらの選定基準に基づき、施設整備候補地を検討・選定した。

■施設整備候補地の選定基準

評価の視点	評価項目	評価内容
(1) 施設利用が見込まれる立地 (利便性・アクセス)	①県民利用	武道館機能を有する多目的施設としての性格から、幅広い県民が利用できるよう県内各地からのアクセスが容易であること
	②生徒・学生利用	県内の生徒・学生が大会や練習で利用できるよう公共交通機関利用によるアクセスが容易であること
	③県外者利用	主要な交通結節点（新幹線駅など）から徒歩圏内又は公共交通機関を利用してアクセスが容易であること
	④駐車場確保	周辺の既存駐車場も含め、利用者用駐車場の確保ができること
(2) 施設整備に必要な用地の確保	①敷地状況（面積）	施設整備に必要な面積が確保できること
	②敷地状況（形状）	できるだけ不整形ではなく、使いやすい形状であること
	③法的制約条件	都市計画、農政関係の各種法令と整合がとれること
	④用地取得可能性	用地取得の確実性が高いこと
(3) 地域の活性化等	①地域活性化・防災の効果	文化、商業、宿泊施設との相乗効果により、地域の活性化が期待できること また、地域の防災機能を果たすこと
	②地域住民の理解	地域住民の方の理解が得られること

(3) 施設整備候補地

- 基本計画検討委員会で設定した選定基準に基づき、①県内各地からのアクセス、利便性が高い場所であること、②施設整備に必要な用地が確保できること、③地域活性化等の面での効果も高いと見込まれることの3つの観点から候補地を抽出し、検討した。

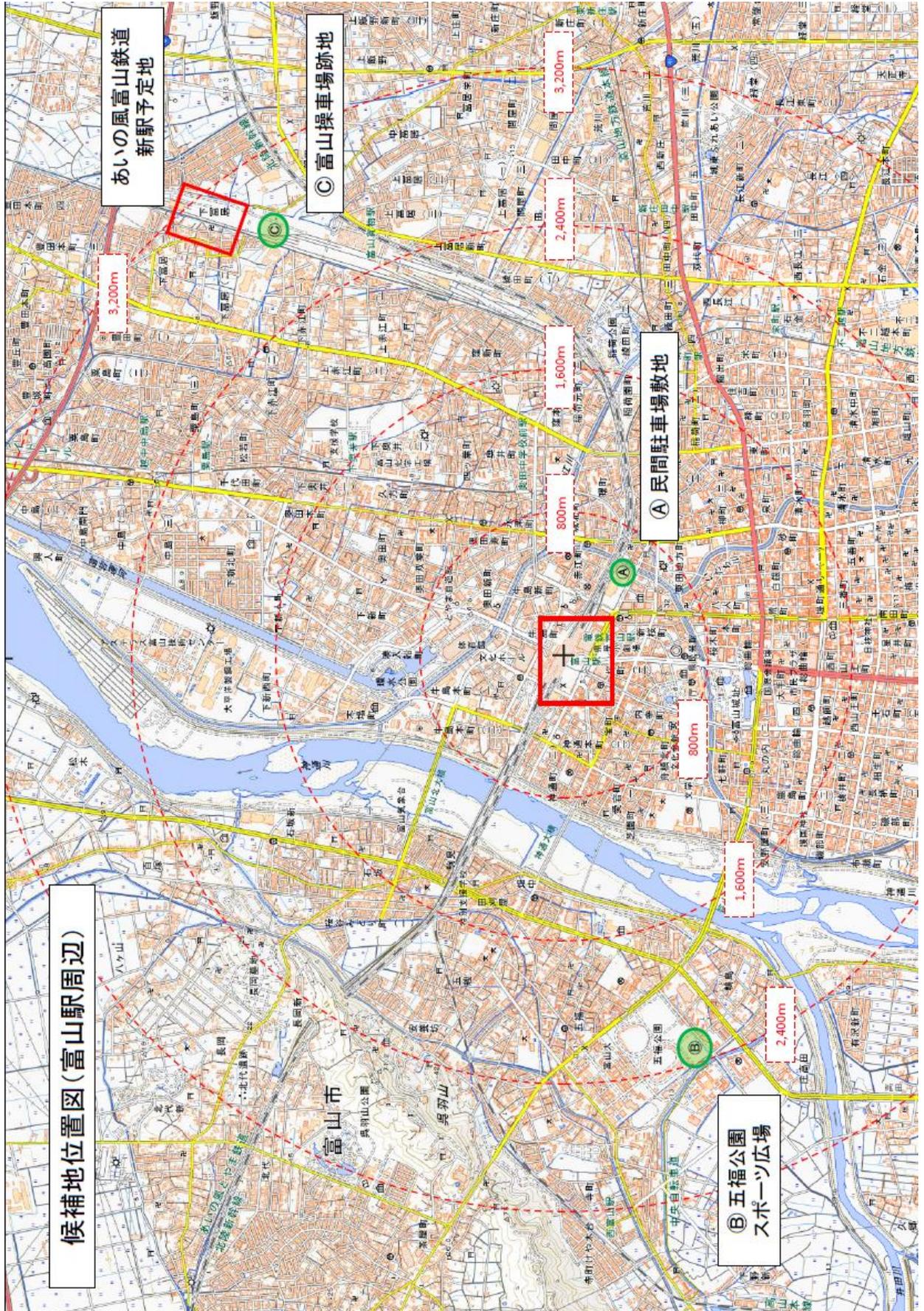
- その上で、土地の上に建物等があり取得交渉に相当程度時間を要すると見込まれる場所など、現実的に事業着手できる可能性が低い場所を候補地から除外し、「④民間駐車場敷地（富山市千歳町地内）」「⑤五福公園（スポーツ広場）（富山市五福地内）」「⑥富山操車場跡地（富山市鍋田地内）」「⑦高岡スポーツコア（高岡市二塚地内）」の4カ所の敷地を評価した。

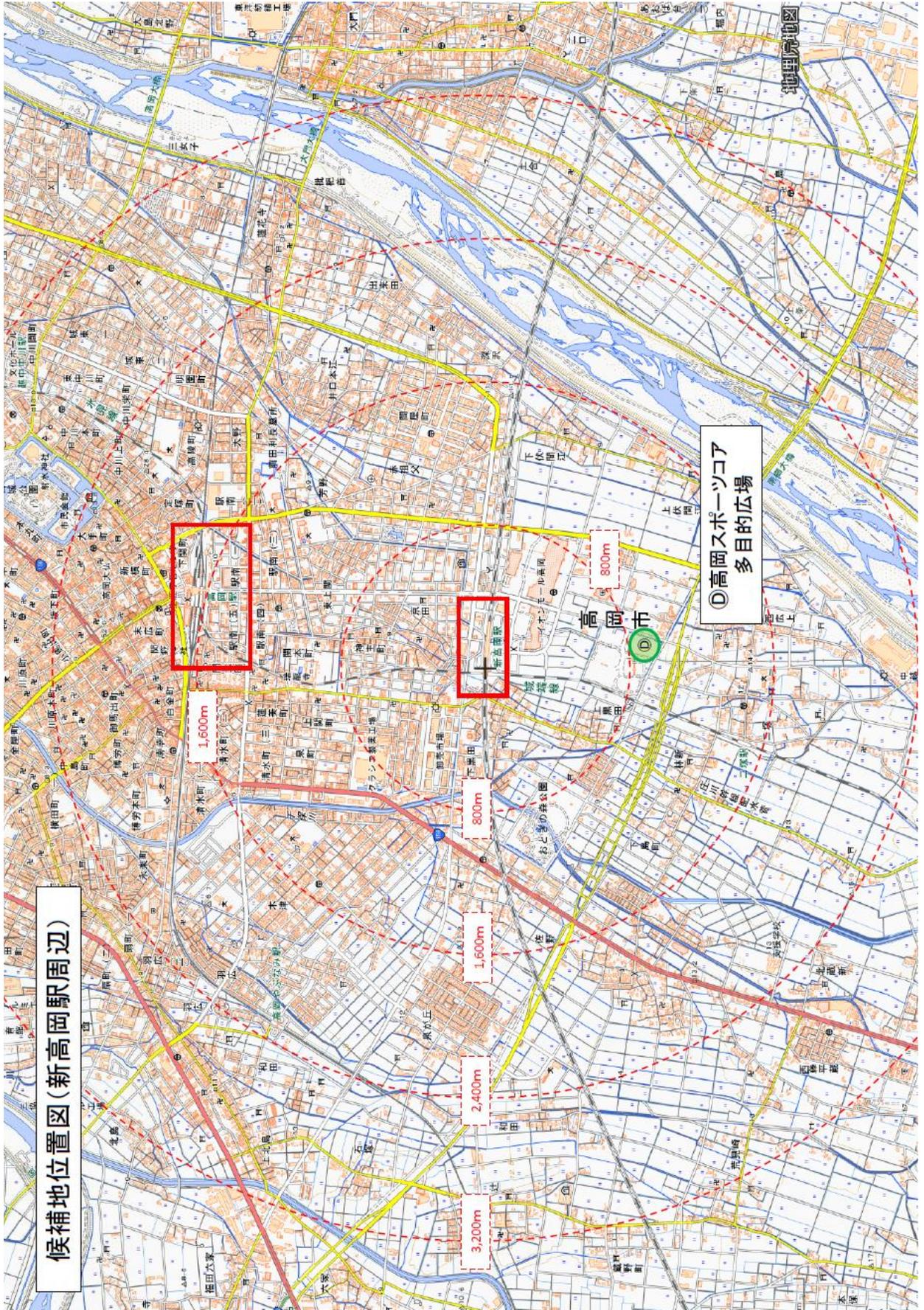
- この結果、
 - ①富山駅から徒歩7分で公共交通利用による利便性が高いこと
 - ②近隣に民間駐車場（9カ所、計1,721台）があり、大会開催時には活用できること
 - ③敷地の形状が良く土地所有者の内諾が得られていること
 - ④近隣に多くの商業施設や宿泊施設があり、宿泊を伴う全国大会や大規模な式典などの利活用が期待されるなど地域活性化効果が期待できること
 - ⑤主道場が2階に配置され、浸水被害等があっても防災備蓄倉庫や、近隣住民・観光客等の避難所として活用できるなど地域の防災機能の点でも評価が高いことなどから、「④民間駐車場敷地（富山市千歳町地内）」が適地として選定された。

候補地選定基準に基づく評価(概要) ※詳細は次頁以降参照

評価の視点・評価項目		㉑民間駐車場敷地	㉒五福公園 (スポーツ広場)	㉓富山操車場跡地	㉔高岡スポーツコア (多目的広場)
(1)施設利用が見込まれる立地	①県民利用	☆☆☆ ・県の中央部に位置し、県西部、新川地域からもアクセスしやすい。 ・公共交通機関からもアクセスしやすい。	☆☆ ・県の中央部に位置し、県西部、新川地域からもアクセスしやすい。	☆ ・県の中央部に位置しているが、近隣道路が渋滞しており課題がある。	☆ ・県西部に位置し、氷見・砺波地域からのアクセスしやすいが、新川地域からは時間を要す。
	②生徒・学生利用	☆☆☆ ・乗り換え不要、徒歩圏内 ・富山駅から550m、徒歩7分	☆☆ ・富山駅から市電15分(運行本数1日118本。毎時4～12本×1両×輸送定員平均80人=毎時320～960人)。バスは1日81本。 ・電車大学前から500m、徒歩6分	☆ ・富山駅から電車で3分(想定)(運行本数1日34本。毎時1～2本×2～4両×輸送定員125人=毎時250～1,000人)。バスは1日2本(現時点)。 ・あいの風とやま鉄道新駅から400m、徒歩5分	☆☆ ・高岡駅から電車3分(運行本数1日23本。毎時1～2本×1～2両×輸送定員124人=毎時124～496人)。バスは1日90本。 ・新高岡駅から800m、徒歩10分
	③県外者利用	☆☆☆ ・富山駅から550m、徒歩7分	☆ ・富山駅から市電15分、電停大学前から500m徒歩6分、計21分	☆ ・富山駅から電車で3分(想定)、徒歩5分、計8分	☆☆ ・新高岡駅から800m、徒歩10分
	④駐車場確保	☆☆ ・富山駅から徒歩圏内に立地。 ・近隣に専用駐車場(約40台)確保。 ・徒歩10分圏内に民間駐車場(9カ所、計1,721台)あり。	☆☆ ・公園内の既設駐車場(400台)を野球場と陸上競技場との共同利用。 ・敷地内に約100台程度新設可。 ・近隣に利用できる民間駐車場なし。	☆☆ ・駐車場として整備可能な敷地あり。 ・周辺の道路交通が日常的に渋滞している。	☆☆ ・公園内の既設駐車場(450台)をサッカー場とテニスコートとの共同利用。 ・近隣に利用できる民間駐車場なし。
(2)施設整備に必要な用地の確保	①敷地状況(面積)	☆☆ 約6,000㎡	☆☆☆ 約12,100㎡	☆☆☆ 約12,000㎡(想定)	☆☆☆ 約17,000㎡
	②敷地状況(形状)	☆☆☆ 整形地	☆☆☆ 整形地	☆☆☆ 整形地	☆☆☆ 整形地
	③法的制約条件	☆☆☆ 商業地域	☆☆ 第1種中高層住居専用地域	☆☆☆ 準工業地域	☆☆☆ 市街化調整区域
	④用地取得可能性	☆☆☆ 土地所有者の内諾あり(県有地との土地交換)	☆☆☆ 県有地(都市公園)	☆☆☆ 県有地	☆☆ 高岡市有地(高岡市との調整が必要)
(3)地域の活性化等	①地域活性化・防災の効果	☆☆☆ ・近隣に、商業、宿泊施設があり、宿泊を伴う全国大会や大規模な式典などの利活用が期待される。 ・主道場(スポーツホール)が2階に配置され避難所としての機能や防災備蓄倉庫としての役割を果たすことができる。	☆☆ ・近隣に、富山大学、富山商業高校、富山工業高校があり、高い利活用が見込まれる。 ・なお、商業施設、宿泊施設がある中心市街地まで車で約5分。(中心市街地まで徒歩距離2.4km、約30分) ・防災備蓄倉庫としての役割を果たすことができる。	☆ ・新駅周辺は、居住地域となることから、商業、宿泊施設等との相乗効果は期待できない。 ・なお、商業施設、宿泊施設がある中心市街地まで車で約15分。 ・防災備蓄倉庫としての役割を果たすことができる。	☆ ・新高岡駅周辺に大規模商業施設があり一定程度の効果は期待できる。宿泊施設(客室数246室)は1カ所。 ・なお、市内中心部のホテルまで車で約10分。(高岡駅まで徒歩距離2.5km、約31分)。 ・防災備蓄倉庫としての役割を果たすことができる。
	②地域住民の理解	☆☆ ・集客施設を想定した商業地域ではあるが、地域住民の方の理解を得る必要がある。	☆ ・五福公園で大会・試合開催時には周辺道路が渋滞していることから、地域住民の方の理解を得る必要がある。	☆ ・周辺の道路交通が日常的に渋滞していることから、地域住民の方の理解を得る必要がある。	☆ ・高岡市新総合体育館の建設予定地ではあるが、地域住民の方の理解を得る必要がある。
総評		☆:27 ・富山駅から徒歩圏内で、多くの県民や公共交通を利用する生徒・学生、県外からの利用者の利便性が非常に高い。	☆:21 ・富山駅から利便性の高い市電でアクセスできること、中心市街地まで車で5分の場所に位置し、富山大学など教育機関も集積している。	☆:19 ・あいの風鉄道駅があり、県内各地から利用しやすいものの、幹線道路からのアクセスが課題(平日でも渋滞箇所となっている)。	☆:20 ・氷見、砺波からのアクセスは良いものの、新川地域からのアクセスが課題。公共交通機関による利便性が低い。

検討した4か所の候補地位置図 (A~D)





① 民間駐車場敷地（富山市千歳町地内）

評価の視点	評価項目 評価内容	① 民間駐車場敷地
① 施設利用が見込まれる立地	① 県民利用 武道館機能を有する多目的施設としての性格から、幅広い県民が利用できるよう県内各地からのアクセスが容易であること	☆☆☆ ・県の中央部に位置し、県西部、新川地域からもアクセスしやすい。 ・公共交通機関からもアクセスしやすい。 ・15 市町村の役所・役場から車で移動距離は、総計で 370km、平均 24.7km。
	② 生徒・学生利用 県内の生徒・学生が大会や練習で利用できるよう公共交通機関利用によるアクセスが容易であること	☆☆☆ ・乗り換え不要、徒歩圏内。 ・最寄り駅：富山駅から 550m、徒歩 7分。 ・県内 69 高校・高等部の最寄り駅から公共交通機関を利用した所要時間は、総計で 2,487 分、1 校あたり 36.0 分。
	③ 県外者利用 主要な交通結節点（新幹線駅など）から徒歩圏内又は公共交通機関を利用してアクセスが容易であること	☆☆☆ ・富山駅から 550m、徒歩 7分。
	④ 駐車場確保 周辺の既存駐車場も含め、利用者用駐車場の確保ができること	☆☆ ・富山駅から徒歩圏内に立地。 ・近隣に専用駐車場（約 40 台）確保。 ・徒歩 10 分圏内に民間駐車場（9カ所、計 1,721 台）あり。
② 施設整備に必要な用地の確保	① 敷地状況（面積） 施設整備に必要な面積が確保できること	☆☆ 敷地面積：約 6,000 m ² （約 90m×約 65m） 【商業地域、建ぺい率 80%、容積率 600%】
	② 敷地状況（形状） できるだけ不整形ではなく、使いやすい形状であること	☆☆☆ 整形地
	③ 法的制約条件 都市計画、農政関係の各種法令と整合がとれること	☆☆☆ 商業地域
	④ 用地取得可能性 用地取得の確実性が高いこと	☆☆☆ 土地所有者の内諾あり （県有地との土地交換）
③ 地域の活性化等	① 地域活性化・防災の効果 文化、商業、宿泊施設との相乗効果により、地域の活性化が期待できること	☆☆☆ ・近隣に、商業、宿泊施設があり、宿泊を伴う全国大会や大規模な式典などの利活用が期待される。 ・主道場（スポーツホール）が 2階に配置され避難所としての機能や防災備蓄倉庫としての役割を果たすことができる。
	② 地域住民の理解 地域住民の方の理解が得られること	☆☆ ・集客施設を想定した商業地域ではあるが、地域住民の方の理解を得る必要がある。
総 評		☆：27 ・富山駅から徒歩圏内で、多くの県民や公共交通を利用する生徒・学生、県外からの利用者の利便性が非常に高い。

④ 民間駐車場敷地

住所	富山市千歳町
所有者	民間企業
位置	<ul style="list-style-type: none"> ・県の中央部に位置し、県西部、新川地域からもアクセスしやすい。 ・公共交通機関からもアクセスしやすい。
アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄り駅: JR富山駅から 550m、徒歩7分。
	<ul style="list-style-type: none"> ・県内 69 高校・高等部の最寄り駅から公共交通機関を利用した所要時間は、総計で 2,487 分、1 校あたり 36.0 分。 ・15 市町村の役所・役場から車での移動距離は、総計で 370km、平均 24.7km。
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣に専用駐車場(約 40 台)確保。 ・徒歩 10 分圏内に民間駐車場(9カ所、計 1,721 台)あり。
周辺環境	近隣に、商業、宿泊施設あり



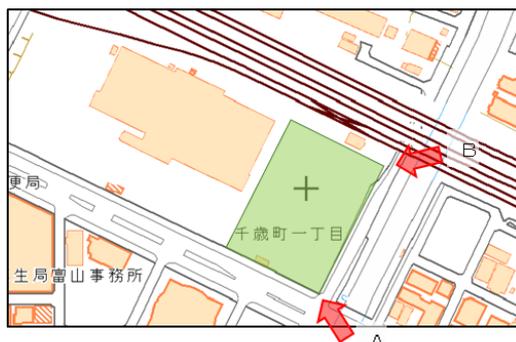
住所: 富山市千歳町
敷地面積: 約6,000㎡(約90m×約65m)
【商業地域、建ぺい率80%※、容積率600%】
※角地指定の場合90%

建築面積: 約4,800㎡(約80m×約60m)
※横浜武道館と同規模(建築面積約80m×約60m)

競技面 1階 畳敷3面、板張り3面
2階 木床2,000㎡

観客席(3階)
(仮設席も含め4,000~5,000席程度)

ジョギングコース



現況写真



② 五福公園（スポーツ広場）（富山市五福地内）

評価の視点	評価項目 評価内容	② 五福公園(スポーツ広場)
(1) 施設利用が見込まれる立地	① 県民利用 武道館機能を有する多目的施設としての性格から、幅広い県民が利用できるよう県内各地からのアクセスが容易であること	☆☆ ・県の中央部に位置し、県西部、新川地域からもアクセスしやすい。 ・15 市町村の役所・役場から車での移動距離は、総計で 385km、平均 25.7km。
	② 生徒・学生利用 県内の生徒・学生が大会や練習で利用できるよう公共交通機関利用によるアクセスが容易であること	☆☆ ・富山駅から市電 15 分(運行本数1日 118 本。毎時 4~12 本×1 両×輸送定員平均 80 人=毎時 320~960 人)。バスは 1 日 81 本。 ・最寄り駅:(富山駅から市電 15 分)富山地方鉄道市内電車大学前から 500m、徒歩 6 分。 ・県内 69 高校・高等部の最寄り駅から公共交通機関を利用した所要時間は、総計で 3,386 分、1 校あたり 49.1 分。
	③ 県外者利用 主要な交通結節点(新幹線駅など)から徒歩圏内又は公共交通機関を利用してアクセスが容易であること	☆ ・富山駅から市電 15 分、電停大学前から 500m 徒歩 6 分、計 21 分。 ・富山駅から約 3.0km(徒歩約 38 分)。
	④ 駐車場確保 周辺の既存駐車場も含め、利用者用駐車場の確保ができること	☆☆ ・公園内の既設駐車場(400 台)を野球場と陸上競技場との共同利用。 ・敷地内に約 100 台程度新設可。 ・近隣に利用できる民間駐車場なし。
(2) 施設整備に必要な用地の確保	① 敷地状況(面積) 施設整備に必要な面積が確保できること	☆☆☆ 敷地面積:約 12,100 m ² (約 130m×約 90m) 【建ぺい率 60%、容積率 200%】
	② 敷地状況(形状) できるだけ不整形ではなく、使いやすい形状であること	☆☆☆ 整形地
	③ 法的制約条件 都市計画、農政関係の各種法令と整合がとれること	☆☆ 第一種中高層住居専用地域※ (※住宅や 500 m ² 以下の店舗など建築物の用途制限があり都市計画(用途地域)の変更手続きを要す)
	④ 用地取得可能性 用地取得の確実性が高いこと	☆☆☆ 県有地(都市公園)
(3) 地域の活性化等	① 地域活性化・防災の効果 文化、商業、宿泊施設との相乗効果により、地域の活性化が期待できること	☆☆ ・近隣に、富山大学、富山商業高校、富山工業高校があり、高い利活用が見込まれる。 ・なお、商業施設、宿泊施設がある中心市街地まで車で約 5 分。 ・防災備蓄倉庫としての役割を果たすことができる。
	② 地域住民の理解 地域住民の方の理解が得られること	☆ ・五福公園で大会・試合開催時には周辺道路が渋滞していることから、地域住民の方の理解を得る必要がある。
総 評		☆:21 ・富山駅から利便性の高い市電でアクセスできること、中心市街地まで車で 5 分の場所に位置し、富山大学など教育機関も集積している。

② 五福公園(スポーツ広場)

住所	富山市五福
所有者	富山県(都市公園)
位置	・県の中央部に位置し、県西部、新川地域からもアクセスしやすい。
アクセス	・最寄り駅:(富山駅から市電 15 分)富山地方鉄道市内電車大学前から 500m、徒歩 6 分。
	・県内 69 高校・高等部の最寄り駅から公共交通機関を利用した所要時間は、総計で 3,386 分、1 校あたり 49.1 分。
	・15 市町村の役所・役場から車での移動距離は、総計で 385km、平均 25.7km。
駐車場	・公園内の既設駐車場(400 台)を野球場と陸上競技場との共同利用。 ・敷地内に約 100 台程度新設可。 ・近隣に利用できる民間駐車場なし。
周辺環境	近隣に、富山大学や富山商業高校、富山工業高校あり。 (なお、中心市街地まで車で約5分。)



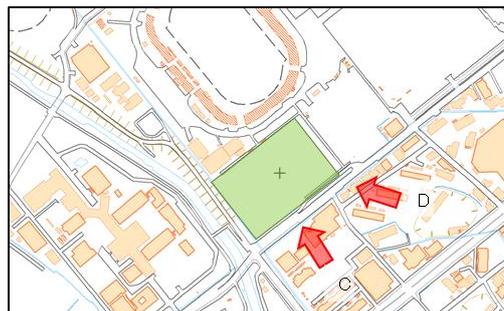
住所:富山市五福
敷地面積:約12,100㎡(約130m×約90m)
【第一種中高層住居専用地域(用途地域変更の
手続きを要する)、建ぺい率60%、容積率200%】

建築面積:約7,000㎡(約100m×約70m)

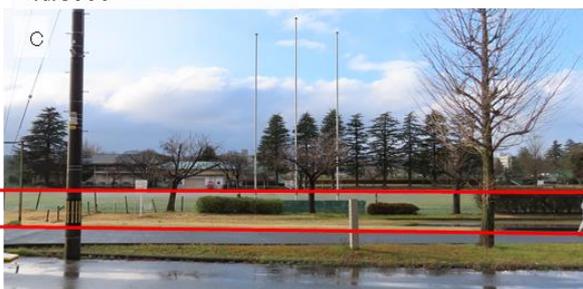
競技面 柔道場:畳敷3面、剣道場:板張り3面
(1階) 主道場:木床2,000㎡

観客席(2階)
(仮設席も含め4,000~5,000席程度)

ジョギングコース



現況写真



◎ 富山操車場跡地（富山市鍋田地内）

評価の視点	評価項目 評価内容	◎ 富山操車場跡地
(1) 施設利用が見込まれる立地	① 県民利用 武道館機能を有する多目的施設としての性格から、幅広い県民が利用できるよう県内各地からのアクセスが容易であること	☆ ・県の中央部に位置しているが、近隣道路が渋滞しており課題がある。 ・15 市町村の役所・役場から車での移動距離は、総計で 389km、平均 26.0km。
	② 生徒・学生利用 県内の生徒・学生が大会や練習で利用できるよう公共交通機関利用によるアクセスが容易であること	☆ ・富山駅から電車で 3 分(想定)(運行本数1日 34 本、毎時1~2 本×2~4両×輸送定員 125 人=毎時 250~1,000 人)。バスは1日2 本(現時点)。 ・最寄り駅:(富山駅から電車で3分(想定))あいの風とやま鉄道新駅から 400m、徒歩 5 分。 ・県内 69 高校・高等部の最寄り駅から公共交通機関を利用した所要時間は、総計で 2,836 分、1校あたり 41.1 分。
	③ 県外者利用 主要な交通結節点(新幹線駅など)から徒歩圏内又は公共交通機関を利用してアクセスが容易であること	☆ ・富山駅から電車で3分(想定)、徒歩5分、計8分。 ・富山駅から距離 4.1km(徒歩約 52 分)。
	④ 駐車場確保 周辺の既存駐車場も含め、利用者用駐車場の確保ができること	☆☆ ・駐車場として整備可能な敷地あり。 ・周辺の道路交通が日常的に渋滞している。
(2) 施設整備に必要な用地の確保	① 敷地状況(面積) 施設整備に必要な面積が確保できること	☆☆☆ 敷地面積:約 12,000 m ² (約 120m×約 100m) 【建ぺい率 60%、容積率 200%】
	② 敷地状況(形状) できるだけ不整形ではなく、使いやすい形状であること	☆☆☆ 整形地
	③ 法的制約条件 都市計画、農政関係の各種法令と整合がとれること	☆☆☆ 準工業地域(大規模集客施設制限地区※) ※客席部分が1万 m ² を超える施設
	④ 用地取得可能性 用地取得の確実性が高いこと	☆☆☆ 県有地
(3) 地域の活性化等	① 地域活性化・防災の効果 文化、商業、宿泊施設との相乗効果により、地域の活性化が期待できること	☆ ・新駅周辺は、居住地域となることから、商業、宿泊施設等との相乗効果は期待できない。 ・なお、商業施設、宿泊施設がある中心市街地まで車で約 15 分。 ・防災備蓄倉庫としての役割を果たすことができる。
	② 地域住民の理解 地域住民の方の理解が得られること	☆ ・周辺の道路交通が日常的に渋滞していることから、地域住民の方の理解を得る必要がある。
総 評		☆:19 ・あいの風鉄道駅があり、県内各地から利用しやすいものの、幹線道路からのアクセスが課題(平日でも渋滞箇所となっている)。

◎ 富山操車場跡地

住所	富山市鍋田
所有者	富山県
位置	・県の中央部に位置しているが、近隣道路が渋滞しており課題がある。
アクセス	・最寄り駅：(富山駅から電車で3分(想定))あいの風とやま鉄道新駅から400m、徒歩5分。
	・県内69高校・高等部の最寄り駅から公共交通機関を利用した所要時間は、総計で2,836分、1校あたり41.1分。
	・15市町村の役所・役場から車での移動距離は、総計で389km、平均26.0km。
駐車場	・駐車場として整備可能な敷地あり。 ・周辺の道路交通が日常的に渋滞している。
周辺環境	新駅周辺は、居住地域となる。



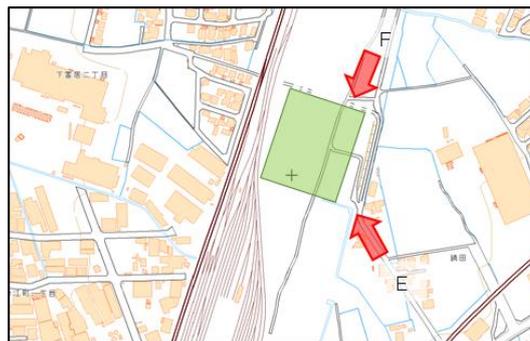
住所：富山市鍋田(操車場跡地約10haのうち)
敷地面積：約12,000m²(約120m×約100m)
【準工業地域(大規模集客施設制限地区※)、建ぺい率60%、容積率200%】(※客席部分が1万m²を超える施設)

建築面積：約7,000m²(約100m×約70m)

競技面 柔道場：畳敷3面、剣道場：板張り3面
(1階) 主道場：木床2,000m²

観客席(2階)
(仮設席も含め4,000~5,000席程度)

ジョギングコース



現況写真



④ 高岡スポーツコア（多目的広場）（高岡市二塚地内）

評価の視点	評価項目 評価内容	④ 高岡スポーツコア(多目的広場)
(1) 施設利用が見込まれる立地	① 県民利用 武道館機能を有する多目的施設としての性格から、幅広い県民が利用できるよう県内各地からのアクセスが容易であること	☆ ・県西部に位置し、氷見・砺波地域からアクセスしやすいが、新川地域からは時間を要す。 ・15 市町村の役所・役場から車で移動距離は、総計で 462km、平均 30.8km。
	② 生徒・学生利用 県内の生徒・学生が大会や練習で利用できるよう公共交通機関利用によるアクセスが容易であること	☆☆ ・高岡駅から電車 3 分(運行本数1日 23 本、毎時 1~2 本×1~2 両×輸送定員 124 人=毎時 124~496 人)。バスは1日 90 本。 ・最寄り駅:(高岡駅から電車 3 分)JR 新高岡駅(北陸新幹線、JR 城端線)から 800m、徒歩 10 分 ・県内 69 高校・高等部の最寄り駅から公共交通機関を利用した所要時間は、総計で 3,557 分、1校あたり 51.6 分。
	③ 県外者利用 主要な交通結節点(新幹線駅など)から徒歩圏内又は公共交通機関を利用してアクセスが容易であること	☆☆☆ ・新高岡駅から 800m、徒歩 10 分。
	④ 駐車場確保 周辺の既存駐車場も含め、利用者用駐車場の確保ができること	☆☆ ・公園内の既設駐車場(450 台)をサッカー場とテニスコートとの共同利用。 ・近隣に利用できる民間駐車場なし。
(2) 施設整備に必要な用地の確保	① 敷地状況(面積) 施設整備に必要な面積が確保できること	☆☆☆ 敷地面積:約 17,000 m ² (約 170m×約 100m) 【建ぺい率 70%、容積率 400%】
	② 敷地状況(形状) できるだけ不整形ではなく、使いやすい形状であること	☆☆☆ 整形地
	③ 法的制約条件 都市計画、農政関係の各種法令と整合がとれること	☆☆☆ 市街化調整区域 (高岡市新総合体育館建設用地)
	④ 用地取得可能性 用地取得の確実性が高いこと	☆☆ 高岡市有地 (高岡市との調整が必要)
(3) 地域の活性化等	① 地域活性化・防災の効果 文化、商業、宿泊施設との相乗効果により、地域の活性化が期待できること	☆ ・新高岡駅周辺に大規模商業施設があり一定程度の効果は期待できる。宿泊施設(客室数 246 室)は1か所。 ・なお、市内中心部のホテルまで車で約10分。 ・防災備蓄倉庫としての役割を果たすことができる。
	② 地域住民の理解 地域住民の方の理解が得られること	☆ ・高岡市新総合体育館の建設予定地ではあるが、地域住民の方の理解を得る必要がある。
総 評		☆:20 ・氷見、砺波からのアクセスは良いものの、新川地域からのアクセスが課題。公共交通機関による利便性が低い。

㊦ 高岡スポーツコア(多目的広場)

住所	高岡市二塚
所有者	高岡市
位置	・県西部に位置し、氷見・砺波地域からのアクセスしやすいが、新川地域からは時間を要す。
アクセス	・最寄り駅:(高岡駅から電車3分)JR新高岡駅(北陸新幹線、JR城端線)から800m、徒歩10分
	・県内69高校・高等部の最寄り駅から公共交通機関を利用した所要時間は、総計で3,557分、1校あたり51.6分。
	・15市町村の役所・役場から車での移動距離は、総計で462km、平均30.8km。
駐車場	・公園内の既設駐車場(450台)をサッカー場とテニスコートとの共同利用。 ・近隣に利用できる民間駐車場なし。
周辺環境	新高岡駅周辺に大規模商業施設があり。宿泊施設(客室数246室)1か所。(なお、市内中心部のホテルまで車で約10分。)



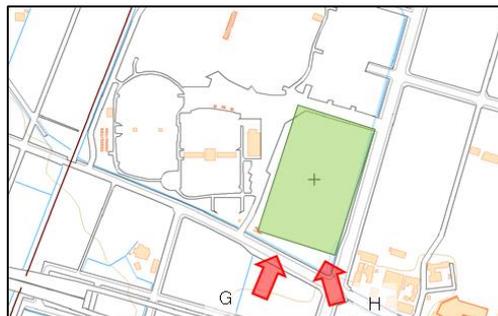
住所:高岡市二塚(スポーツコア敷地114,000㎡のうち)
敷地面積:約17,000㎡(約170m×約100m)
【市街化調整区域、建ぺい率70%、容積率400%】

建築面積:約7,000㎡(約100m×約70m)

競技面 柔道場:畳敷3面、剣道場:板張り3面
(1階) 主道場:木床2,000㎡

観客席(2階)
(仮設席も含め4,000~5,000席程度)

ジョギングコース



現況写真



■候補地選定時の委員の主な意見（第2回基本計画検討委員会）

「①民間駐車場敷地（富山市千歳町地内）」「②五福公園（スポーツ広場）（富山市五福地内）」「③富山操車場跡地（富山市鍋田地内）」「④高岡スポーツコア（高岡市二塚地内）」の4カ所について、検討・評価した際の委員の発言を以下に整理した。

- 利用者の便益を考えると、①が断然優位であることは明らかである。とりわけ、高校生や中学生の利用を考えると、公共交通機関が利用できることは決定的である。イベント等の利用に際しても、利用者側から見るとAの利便性が最も高い。さらに、周囲に都市的施設が多いため、イベント終了後の利用など相乗効果の高い利用が可能である。周囲の商業施設にも良い影響を与えることができる。また、都市サイドの視点から見ても、このような施設が都心近くにできることによって、コンパクトシティの実現に寄与することになる。さらに、歩行圏内でさまざまなニーズに対応できるという強みもある。防災拠点としての役割の面でも、①の周辺人口が最も多いため、拠点としての効果が最も高いといえる。②、③、④の立地では、武道館施設が孤立しかねず、周辺に関連用途の立地を促進することも困難である。物理的に見ても、①以外では巨大施設が、広いオープンスペースの中にただ孤立した形で建つことになるので、周辺とのスケール感の断絶が大きいように感じられる。
- できるだけ多くの選手が日常的に練習できたり、集客力も見込めるという点、いろいろな条件を考えても①の場所が、年間を通して日常的に一番多くの人が利用できる。
- 武道館ではいろいろなものが行われるという点では、小・中・高の強化行事や大会などはやはり利便性のある駅に近い所（①）が集まりやすく、子どもたちも意欲を燃やして出席・参加してくれる。
- ①の場所は、全国規模や国際規模の大会・イベント等に使われる際に必要な宿泊施設の関係についても一定程度の配慮がなされた場所に立地しており、地域活性化の効果が期待できる。
- 加えて、何よりも地域防災的な効果が見込まれることを考えても、この周辺に往来する人たちも非常に多く、いざというときに利用者も地域の人たちも利用できる可能性が高いこと。また、敷地条件の容積率を見ると断トツに高く、建物を上に積み上げられるので、防災機能を果たす上でも2階建て、3階建てとすることができる。

2 導入機能及び施設規模

施設コンセプトを踏まえ「主道場（スポーツホール）」「武道場」「健康増進機能」が必要である。



(1) 各機能の施設規模

次頁以降の各機能の施設規模を踏まえてボリュームスタディを行った結果、延床面積 14,000 ㎡程度が必要である。施設規模及び各機能の延床面積は、概ね下記のとおりとするが、来年度以降に実施する基本設計・実施設計において精査する。

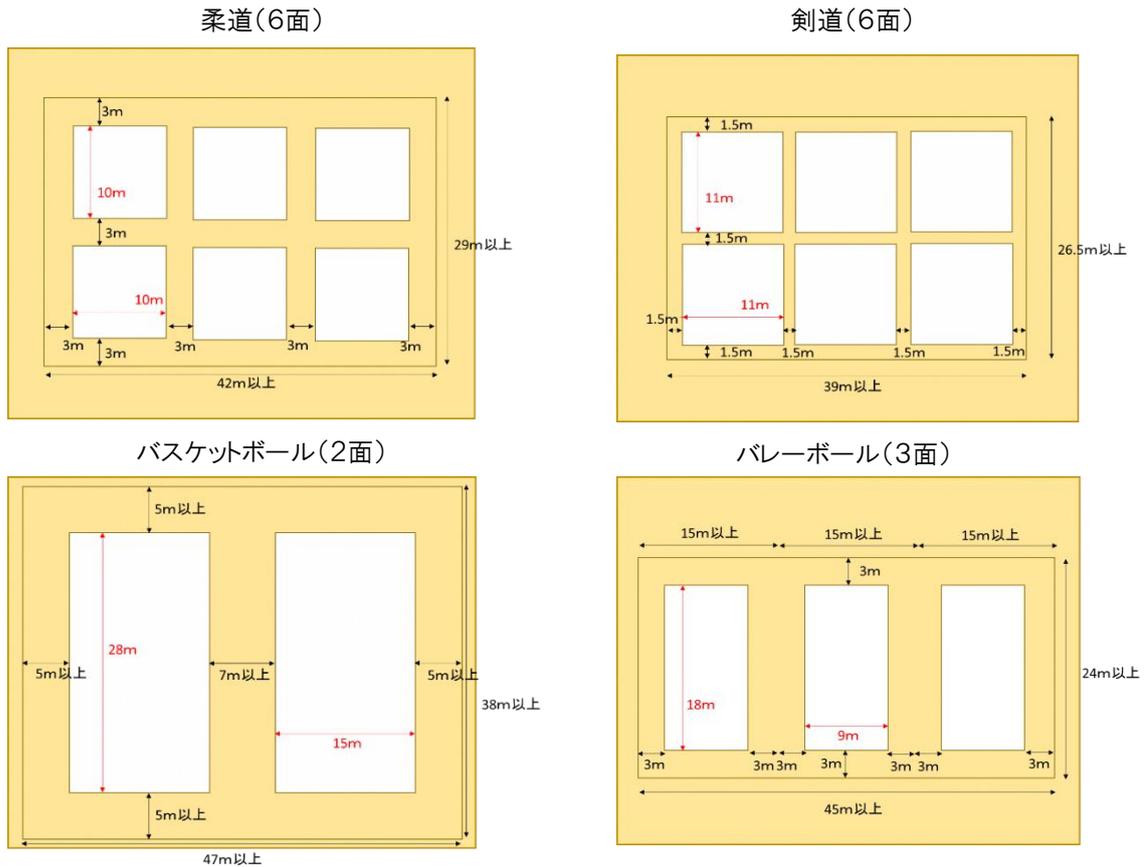
武道館機能を有する多目的施設の施設規模

諸室名	延床面積	施設機能等
主道場 (スポーツホール)	6,000 ㎡程度	競技面（柔道 6 面、剣道 6 面、バスケットボール 2 面、バレーボール 3 面） 観客席 4,000～5,000 席程度（仮設席を含む） その他（器具庫・可動席収納庫・大会諸室・選手控室・更衣室等）
武道場 (畳敷き・板敷き)	2,000 ㎡程度	競技面（畳敷き 3 面及び板敷き 3 面、可動間仕切り設置） その他（器具庫・更衣室等）
健康増進機能	1,000 ㎡程度	トレーニング室 ジョギングコース（ウォーキングコース）
管理・サービス機能	5,000 ㎡程度	エントランス・ホワイエ・廊下・階段 事務室・会議室・医務室・トイレ・機械室・搬入ヤード等
防災機能		避難所・防災備蓄倉庫
合計	14,000 ㎡程度	

(2) 主道場（スポーツホール）【競技面】

武道競技の公式大会の開催規模を考慮すると、競技面は2,000 m²程度（40m×50m）が必要である。また、その面積があれば、その他スポーツ利用（バスケットボール・バレーボール等）も可能となる。

参考：主道場（スポーツホール）のレイアウトイメージ（40m×50m）



【柔道】

- ・ 公益財団法人全日本柔道連盟「大会運営ガイドブック 2014」による
- ・ 講道館柔道試合審判規定では、場内が9.1m×9.1m、場外安全地帯が1.8m～2m
- ・ IJF主催のオリンピック等の場合は、場内が10m×10m、場外安全地帯が4m
- ・ IJF主催のオリンピック等以外の場合は、場内が8m×8m、場外安全エリアは3～4m

【剣道】

- ・ 一般財団法人全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則/剣道試合・審判細則」による

【バスケットボール】

- ・ 公益財団法人日本バスケットボール協会「バスケットボール競技規則」による

【バレーボール】

- ・ 公益財団法人日本バレーボール協会「バレーボール6人制競技規則」による

参考：類似施設の状況

施設名	設置者	建設年	延床面積	主道場 (スポーツホール) 競技面		試合場 柔道・剣道
群馬県武道館	群馬県	2000年	10,368 m ²	—	1,470 m ²	6面※
青森県武道館	青森県	2000年	18,221 m ²	47.5m× 47.5m	2,256 m ²	8面
静岡県武道館	静岡県	2002年	12,914 m ²	40m×50m	2,000 m ²	6面
埼玉県立武道館	埼玉県	2003年	11,051 m ²	37m×51m	1,887 m ²	6面
新潟県立武道館	新潟県	2019年	13,035 m ²	—	2,150 m ²	8面※
長野県立武道館	長野県	2020年	12,382 m ²	—	2,348 m ²	6面

※武道専用で他の室内球技ができない（短辺の幅が狭い）。

出所：各施設ホームページ及び各自治体公表資料に基づき作成。

参考：試合場6面で開催されている主な武道大会

種目	大会名	開催年月	会場	試合場面数
柔道	全日本ジュニア体重別選手権大会	2019年9月	埼玉県立武道館	6面
柔道	近代柔道杯全国中学生大会	2019年3月	埼玉県立武道館	6面
柔道	全日本女子選手権大会	2019年4月	横浜文化体育館	6面
剣道	全国高等学校剣道大会	2019年8月	熊本県立総合体育館	6面
剣道	国民体育大会剣道大会	2018年9月	福井県立武道館	6面
剣道	全国中学校剣道大会	2018年8月	岡山市総合文化体育館	6面

(3) 主道場（スポーツホール）【観客席・最大収容人数】

主道場（スポーツホール）の最大収容人数は、武道競技の公式大会開催時、室内球技等のスポーツ大会時、文化イベントなど地域活性化に寄与するイベント開催時にも収容できるよう計画する必要がある。

武道競技の公式大会開催時の観客席数や、室内球技等のスポーツ大会時に必要な観客席数として、競技団体からは3,000席以上が必要との意見が得られている。また、地域活性化に寄与するコンサート等のイベントにも利用できるようにするためには、観客席数2,000席程度の文化ホール等と差別化することが重要であり、可動席及び仮設席を含めた最大収容人数として4,000人～5,000人程度が必要である。

なお、最大収容人数4,000人～5,000人の類似施設では、マーチングバンド全国大会の地方ブロック大会や、ポップス系の日本人アーティストによる全国ツアー等が開催されている。

参考：最大収容人数4,000人～5,000人規模の類似施設におけるイベント開催実績(2018年)

施設名	設置者	最大収容人数	タイトル	分類
岡山市総合文化体育館	岡山市	3,500人	第30回記念大会 マーチング・イン・岡山	クラシック
島根県立浜山公園浜山体育館カミアリーナ	島根県	3,552人	第37回全日本小学校バンドフェスティバル中国大会	クラシック
			第31回全日本マーチングコンテスト中国大会	クラシック
山形県総合運動公園総合体育館	山形県	3,976人	平成30年度2018山形県マーチング&バトンフェスティバル	クラシック
滋賀県立体育館	滋賀県	4,905人	レビック単独公演 Merci Day 感謝祭	クラシック
秋田県立体育館	秋田県	5,000人	「大いなる秋田」マーチングバンドフェスティバル	クラシック
シーハットおおむら	大村市	5,000人	第3回NAGASAKI ブラス&マーチングフェスティバル	クラシック
由利本荘総合防災公園ナイスアリーナ	由利本荘市	5,000人	The 音楽祭 in 由利本荘	ポップス
いしかわ総合スポーツセンター	石川県	5,000人	小田和正	ポップス

出所：2019ライブ・エンタテインメント白書（ぴあ株式会社）のデータに基づき作成。

(4) 武道場（畳敷き3面・板敷き3面）

日常の稽古等での利用を想定し、県営の富山武道館及び高岡武道館をあわせた面積と同程度の水準を確保する。

武道場（畳敷き3面・板敷き3面）には、複数団体が同時利用できるように可動間仕切りの設置を検討する。また、小・中規模の武道大会が開催できるように必要な観客席を設置する。

武道競技だけでなく、ヨガ教室やストレッチ教室、エアロビクス教室、ダンス教室など県民の健康増進に繋がる催事もできるよう配慮する。（利用率向上のため、カルタ大会などの文化活動の利用も検討する。）

(5) 健康増進機能

県民が日常的にスポーツ活動に取り組める場として、幅広い年代の方が無理なく身体活動に取り組み、体力づくりのきっかけとして活用できる場として、健康増進に寄与するトレーニング室を確保する。

また、スポーツホールの固定観客席の後部空間を有効活用し、ジョギングコースを確保する。ジョギングコースの確保にあたっては、ジョギングに適した床材の選定や、ウォーキングもできるよう安全面に配慮したコース幅員の確保にも配慮して計画する。

(6) 管理・サービス機能

全国規模の武道大会や地域活性化に寄与するイベント開催時の観客動線や避難誘導に支障のない空間を確保する（エントランス・ホワイエ・廊下・階段）。特に、4,000人～5,000人規模の観客を収容するイベントに際しての観客の入場・退場の動線やイベント資材の搬入の動線も確保する。

また、武道競技の公式大会開催、武道や室内球技など日常的なスポーツ利用、文化イベントの開催など、本施設の利用形態を踏まえた上で、管理運営上必要な諸室を確保する（事務室・会議室・医務室・トイレ・機械室・搬入ヤード等）。

(7) 防災機能

避難所や防災備蓄倉庫など地域の防災力を高める機能を確保する。

災害時だけでなく平常時においても、防災意識を高めるための研修や防災訓練の場所としても活用できる施設とする。

また、国内外からの観光客の避難も想定し、非常食・水・毛布だけでなく、段ボールベッドなど必要な備蓄品目について検討する必要がある。

第5 施設整備にあたり考慮すべき事項

(1) 名称について

施設の名称については、これまでの検討委員会の議論や施設のコンセプトを踏まえ、「富山県武道館」とする。

また、施設の名称とは別に、県民に親しみやすく分かりやすい愛称を設けることとし、今後、施設の設計により、概ね建物のイメージ図ができた際に公募も含め検討する。

(2) 駐車場の確保

施設整備候補地は富山駅から徒歩圏内であり、公共交通機関での利便性が高い立地であるため、公共交通機関の利用を基本とする。

一方で、武道競技等の大会開催時には団体バスの利用や保護者による自家用車での送迎が想定されるほか、障がい者のための配慮も必要である。

施設整備候補地及びその周辺において団体バスの乗降や荷物の積み下ろしができるスペース、障がい者用駐車場、送迎者用乗降場を確保することについて検討する。また、近隣に専用駐車場（約40台）を確保するとともに、周辺の民間駐車場（徒歩10分圏内に民間駐車場9カ所、計1,721台あり）を活用することで、必要な駐車台数を確保する。

(3) ユニバーサルデザインへの配慮

日常的なスポーツ利用や柔剣道等の大会だけでなく、イベント等での利用や防災機能も有する施設であることから、子どもから高齢者、障がい者、すべての方が利用しやすい施設となるよう、バリアフリーだけでなく、トイレや出入口などの分かりやすいサインなどユニバーサルデザインに配慮するものとする。また、施設内だけでなく富山駅からの徒歩動線の案内についても工夫する。

(4) 多目的な利用への配慮

スポーツイベントや文化イベントの開催など富山県の賑わい創出に寄与する施設として、地域活性化に資する催事を開催するためには、音響・照明・映像等の演出のために催事主催者が持ち込む資機材が利用できるように配慮する必要がある。

このため、資機材を搬出入しやすい搬入口の確保、演出用資機材の仮設に必要な耐荷重や吊荷重の確保、電源等のインフラ敷設などの配慮が必要である。

(5) 最新技術の利活用への配慮

5GやICTなど最新技術を利活用することにより、例えば、これまでになかったスポーツ大会等の観戦環境をつくり出したり、オンラインコーチングなど遠隔地と連携して競技力向上に資するコンテンツを施設利用者に提供できるようにするなど、他の武道館にない特長を有し差別化を図る必要がある。

このため、将来さまざまな技術が実用化されていくことを踏まえて、これらの技術を導入できるような通信基盤やインフラを敷設できるような施設計画上の工夫などの配慮が必要である。

(6) 県産材等の活用

県民が誇りを持てる施設にしていくため、また県民や利用者にとって温かみのある利用環境をつくりだすため、県産材の活用について検討し、仮に構造材としては使用できない場合でも、内装材等に積極的に県産材等を活用することについて検討する。

(7) 経済性・環境への配慮

使い勝手が良く機能的でメンテナンス性の高い施設を基本として、設計の工夫や華美なものではなく汎用的な部材を採用するなど、建設費や維持管理費を抑える工夫について検討する必要がある。

環境への負荷を極力低減させるような工夫についても検討する。

(8) 既設の武道館の統廃合

現在の県営富山武道館と県営高岡武道館を県営施設としては廃止することとし、廃止後の施設の活用については、地元市をはじめ関係方面と十分協議し、適切に対処していく必要がある。

(9) 弓道場、相撲場について

現在の県営弓道場は、呉羽丘陵の緑豊かな閑静な地（富山市茶屋）にあり、競技者にとって理想的な環境にある。また、五福公園にある富山県体育協会相撲場は、2000年国体に向け相撲競技の拠点として平成5年（1993年）に整備され、富山商業高校の練習場所としても活用されている。

弓道場・相撲場の機能については、既存の県営富山弓道場及び富山県体育協会の相撲場に、必要な改修等を実施する。

(10) 防災機能について

地震などの災害時には、近隣住民や観光客等の避難所として主道場（スポーツホール）や武道場、観覧席などを活用する。

万一、浸水被害等があっても、防災備蓄倉庫や、近隣住民や観光客等の避難所として機能させる必要があることから、機械室や非常用自家発電設備を浸水しにくい階層へ配置するなど、非常時でも施設機能をダウンさせないような計画上の工夫を行う必要がある。

また、災害時だけでなく平常時においても、防災意識を高めるための研修や防災訓練の場所としても活用できるよう配慮する。

第6 事業費と整備スケジュール

1 概算事業費

(1) 概算事業費

主道場（スポーツホール）と武道場をもつ類似施設の実績から設定した事業費単価に、武道館機能を有する多目的施設の延床面積（14,000 m²）を乗じると、概算事業費は85億円から95億円（税込）と試算される。

また、導入する備品や設備のグレードによっては、事業費が変動するので設計段階で精査する必要がある。

参考：類似施設をもとにした事業費単価（備品・設備費を含む）

施設名	建設年	延床面積	主道場 (スポーツホール) 競技面	事業費単価 (税込) ※
群馬県武道館	2000年	10,368 m ²	1,470 m ²	700 千円/m ²
青森県武道館	2000年	18,221 m ²	2,256 m ²	790 千円/m ²
静岡県武道館	2002年	12,914 m ²	2,000 m ²	660 千円/m ²
埼玉県立武道館	2003年	11,051 m ²	1,887 m ²	643 千円/m ²
新潟県立武道館	2019年	13,035 m ²	2,150 m ²	499 千円/m ²
長野県立武道館	2020年	12,382 m ²	2,348 m ²	461 千円/m ²
平均	—	—	—	626 千円/m ²

※2018年時点の建設物価に補正後。

(2) 維持管理・運営費

同規模施設事例の運営費用を参考にした場合、年間支出額は、年間 170 百万円（税込）程度と想定される。

なお、利用料金の設定については、近隣の類似施設及び周辺施設を参考に、県民利用は使いやすいような金額とし、入場料を徴収するような興行利用は費用対効果を考慮した金額とする必要がある。

参考：類似施設をもとにした年間収入額・年間支出額

施設名	設置者	延床面積 (㎡)	年間収入額 (千円/年)			年間 支出額	面積あたり 年間支出額 (千円/ 年㎡)
			A： 使用料 金収入 等	B： 指定管 理料	A+B： 年間収 入額		
埼玉県立武道館	埼玉県	11,051 ㎡	35,665 千円/年	108,982 千円/年	144,647 千円/年	144,647 千円/年	13.1 千円 /年㎡
兵庫県立武道館	兵庫県	14,034 ㎡	35,613 千円/年	144,193 千円/年	179,806 千円/年	179,806 千円/年	12.8 千円 /年㎡
愛媛県武道館	愛媛県	17,499 ㎡	31,152 千円/年	150,946 千円/年	182,467 千円/年	188,903 千円/年	10.8 千円 /年㎡
平均	—	—	—	—	—	—	12.2 千円 /年㎡

※埼玉県立武道館は H28 年度、兵庫県立武道館は H29 年度、愛媛県武道館は H30 年度。

2 事業スケジュール（予定）

令和5年度夏頃の開館を目指す。建設工事期間は設計時点において精査が必要である。

- ・ 令和2年度 設計事業者公募・選定（3か月）、基本設計（6か月）
- ・ 令和3年度 実施設計（6か月）、工事発注手続き（3か月）、建設工事（18か月）
- ・ 令和4年度 建設工事
- ・ 令和5年度 建設工事、開館準備（備品設置、検査など）、開館

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
基本計画策定						
設計	設計者選定		3か月 			
	基本設計		6か月 			
	実施設計			6か月 		
建設	施工者選定			3か月 		
	建設工事				18か月 	
開館準備						
開館						